

1 園の保育・教育目標

心豊かに元気いっぱい遊ぶ子	○やさしい子 ○がんばる子 ○考える子
---------------	---------------------------

2 前年度園評価や幼児教育指導の方針と重点などを基にした、園経営の重点及び具体的方策

- ・自ら挨拶できるよう「あいさつ週間」を設けたり、挨拶したらシールを貼るなどの、視覚化を行ったりして意識づける。
- ・良いことみつけの場を設け、ほかほかコーナーとして掲示したり、保護者におたよりで知らせたりする。
- ・園でのチャレンジカードと共に、生活リズムカードの内容を検討し活用する。
- ・計画的に異年齢交流を行い、互いに刺激をしあえるようにし、子どもの挑戦意欲を引き出す。
- ・ACPの運動遊び集を活用して室内・戸外で体を動かす遊びを行う。
- ・絵本の世界のイメージを随時作品展や発表会、ごっこ遊びなどにつなげる。
- ・地域の高齢者と触れ合ったり、地区センターまつりなどに参加したりして地域と関わる場を設ける。
- ・生活介護事業所“ぐっどらんど”との交流を年3回以上設ける。
- ・送迎時に子どもの良さや頑張ってきた過程を伝える。
- ・キッズビューを利用して、クラスだよりや行事の様子などを発信する。

3 評価項目の達成状況及び取組状況

短期目標	自己評価	保護者評価
①元気に挨拶（しぐさ）や返事をしたり、思いを伝えたりする。	3.2	3.3
②友達や異年齢児との交流を通して相手の思いやよさに気付いて関わる。	3.4	3.3
③苦手なことや難しいことにも挑戦しようとする気持ちをもつ。	3.3	3.1
④全身を動かして遊び、運動あそびを好きになる。	3.6	3.5
⑤好きな遊びを見つけて、試したり、工夫したりして楽しむ。	3.2	3.3
⑥絵本に親しみ、思考やイメージを豊かにする。	3.1	3.1
⑦子どもの命を守る高い意識をもって安全保育を行う。	3.5	3.1
⑧自分の住んでいる地域や、地域の人に親しみをもつ。	3.3	—
⑨保護者と子どもの育ちを共有し、健やかな成長を支える。	3.3	3.5

4 自己評価結果の概要

- ・保育者が積極的に挨拶をする手本を見せることで、自分から挨拶できる子が増えた。
- ・異年齢交流を計画的に行うことで、子ども同士が刺激を受け合い遊びが広がっていった。年上の友達の遊びをやってみようしたり、年下の友達に優しく関わったりする姿も見られるようになり、思いやりの気持ちが育っている。
- ・チャレンジカードを利用することで、触れたことのない遊びにも挑戦しようとする姿が見られるようになった。また、友達の挑戦する姿に刺激され、やってみようという意欲が高まった。
- ・毎日、絵本の読み聞かせを行うことで、読み聞かせの時間を楽しみに待ったり、イメージを膨らませ、絵本の世界を楽しんだりする姿が見られるようになった。絵本貸し出しは家庭により差があり、個別に声掛けをする必要がある。
- ・子どもたちが自ら選んで遊べる環境を整えることで、自分のやりたい遊びを選び、友達と一緒に思いを伝え合いながら、夢中になって遊ぶ姿が見られるようになった。
- ・園で行っている安全対策を家庭へ知らせる機会が少なかった。家庭へ発信していく必要がある。

5 保護者による評価及び意見の概要

- ・チャレンジカードを活用することで、出来ないことをすぐに諦めず、出来るまで頑張ろうとする姿が増えた。
- ・登降園の際に、友達や先生に大きな声で挨拶ができるようになった。
- ・友達とのトラブルの際、自分から謝ったり、相手の気持ちを気遣ったりすることができるようになった。
- ・年下の友達に優しくしたり、世話をしたりするようになった。
- ・正月の地震の際、一番に机の下に隠れていた。園での訓練のおかげだと思う。

6 関係者による評価及び意見の概要

- ・チャレンジカードを活用することは良い方法だと思うので、今後も続けてほしい。
- ・コマ回しや凧づくり、凧あげ等、家ではなかなかできない遊びをチャレンジできて良いと思う。
- ・手作りの遊具・玩具が用意されており、子どもたちが楽しそうに遊ぶ姿があり素敵だった。
- ・よく挨拶ができており、クラスの雰囲気も良く、のびのびと遊ぶ姿がとても良かった。
- ・保育者も子どもと一緒に体動かして遊び、安心して子どもを任せられると感じた。
- ・生活介護事業所“ぐっどらんど”と交流する姿を見て、誰とでも分け隔てなく関わる姿が育っていると感じた。
- ・安心・安全に努めていただき感謝している。今後、地震対策を徹底してほしい。

7 次年度に向けて

- ・今後も保育者自らが見本となり、園児、保護者、来客、地域の方に対して、明るく、元気に挨拶するように心掛ける。
- ・異年齢児との交流の時間を確保する。また、保育者は、子どもの姿を丁寧にとらえ、良い姿を子どもたちにどんどん発信していく。
- ・絵本の貸し出しを行う中で、親子で絵本を見てゆったりとふれ合う時間を推奨していく。また、個別に声を掛け、ふれあいの時間の大切さを伝える。
- ・園で行っている安全対策について、掲示や通信などを通して家庭へ発信する。また、地震対策について、外部講師を招いて職員で学びあう。